

〔資料〕 「農業関係高校における特色ある取り組み」 (活動概要の紹介)

平成 30 年 9 月調査

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
北海道	美唄尚栄	4教科販売会	総合	農業、工業、商業、家庭の4教科クラブが市内の商業施設で販売会と活動発表を行う。
	美幌	びほろ笑顔プロジェクト	生産環境科学科	町民と高校生が立ち上げた本物の合同会社に高校生も「社員」として商品開発・販売など企業活動を実践的に学習している。
	標茶	食の6次産業化プロデューサー	総合学科	食品の生産から製造、販売に至るまでの流れを体験的に学び、食の6次産業化プロデューサーレベル2の認定を目指す
	士幌	地方創生	アグリビジネス科 フードシステム科	士幌町より地方創生活動支援金の助成を受け、新会社設立を設立、また新商品開発や最先端農業技術を取り入れた授業・研究、地域への技術普及へ取り組んでいる。
		志プロジェクト	アグリビジネス科 フードシステム科	生徒の夢や思いをブランドとして認証し、生徒のやる気を引き出し、将来の夢の実現につなげている
	帯広農業	産・官・学・金融連携事業	食品科学科	帯広市、帯広畜産大学、日本甜菜製糖株式会社、中田食品、帯広信用金庫と連携し、地域課題である廃棄農産物を有効活用するため、ビートの絞りかすであるラフィノースを活用し、豆乳ヨーグルトの開発を行っている。
	遠別農業	遠別町ふるさと納税制度返礼品提供	生産科学科	遠別町役場総務課が行っている「ふるさと納税制度」の返礼品に本校生産物(サフォーク種ラム肉加工品や本校農作物等)を提供しており全国の納税者のもとへ送り届けられ本校の活動を広く情報発信している。
	旭川農業	ASIA-GAP 認証の取得	農業科学科	北海道旭川市の主要作物である米について ASIA-GAP 認証を取得し、生産・流通を通して生徒の教育活動に繋げる。
		あったか旭川まん6次産業化プロジェクト	食品科学科	北海道旭川市のご当地グルメであるあったか旭川まんの開発・製造・流通・普及を通し、全国へ向けた活動を展開中である。
		上川林業官学広域連携事業	林業科学科	北海道大学と上川町との連携事業で、科学的視点を持った林業担い手を育成している。
		養護老人施設との交流	生活科学科	学校に隣接している養護老人施設での花壇造成や車いすでも花を植え付けられるレイズドベットの花壇を使い交流を行っている。
	東藻琴	デジタル人材育成	生産科学科	ヤフー株式会社と連携、生徒が立ち上げ運営するインターネットを用いたネットショッピングによる自校生産物の販売。
	ニセコ	京野菜の周年栽培	緑地観光科	地中熱利用ハウスを利用した九条ネギの周年栽培並びにニセコ町内のレストランと連携した九条ネギを使用したメニュー開発
		町花ラベンダーの商品化	緑地観光科	町花ラベンダーを活用したニセコ町の特産品づくり
観光教育		緑地観光科	地域資源を活用した観光教育	
真狩	大豆100粒運動	農芸科学科	子どもの手ひとつ(100粒)から始まる、地場産大豆の研究、普及活動。食育、食品開発、豆腐マイスター取得などの活動も行う。	
青森	三本木農業	農場開放学習	学校全体	幼稚園(保育園)児・小学生の農業体験学習を年間1,000人ほど受入れている。その際、生徒がファームナビゲーターとして案内役をしている。
		農業経営シミュレーション	植物科学科	生徒が仮定の農業会社を設立し、生産・管理・販売(営業)を実際に行うことで農業における経済活動を総合的・実践的に学ぶ科目。
		命の花プロジェクト	動物科学科	動物愛護センターで殺処分されたペットの骨は事業系廃棄物であり、土に返ることもできない現状がある。そこで、殺処分の現状を多くの人に知ってもらおうと目的で、骨を混ぜた土で花を育て、花としてもう一度命を咲かせる活動を行っている。
	五所川原農林	森林の国際標準である FSC 認証を取得	森林科学科	森林経営の国際認証である FSC の認証について学習し、その学習を生かして認証取得、木材の出荷・販売を行う活動
		農業の国際標準である GLOBAL GAP 認証を取得	全学科	農業経営の国際認証である GLOBAL GAP の認証について学習し、その学習を生かして認証取得、農産物の出荷・販売を行う活動
	柏木農業	世界遺産の森を広げよう	生活科学科	白神山地の世界遺産指定地域の周辺地で、次世代にも豊かな白神山地の大切さを受け継いでもらえるよう、小学校低学年や幼稚園の子どもたちと自然体験などの活動と一緒にしながら、環境保護に関する教育を進めている。
弘前実業 藤崎校舎	ふじりんご新品種「藤巧者」の植樹事業	りんご科	本校のふじりんごの果樹園から生まれた新品種「藤巧者」のDNAの植樹事業を始め、柏農、五農、そして7年前の東日本大震災で被災し、学校園場が全滅した宮城県農業高校にも行き、接ぎ木をして植樹をしました。このような私たちの地道な活動により、藤崎校舎は閉校になってしまいますが、藤崎校舎70年間の歴史の中で培ってきた技術と伝統が受け継がれていくことになりました。	
岩手	盛岡農業	高速道路サービスエリアの花壇づくり	植物科学科	学校近くの東北自動車道滝沢P、A上下線の花壇を生徒が設計し作成している。
		共同開発パン	食品科学科	学校がある滝沢市名物のスイカをモチーフにデザインした「みんなのスイカパン」。生地には国産の小麦のほか、県産のもち小麦「もち姫」が使われていてしっとりとした食感が特徴です。種をチョコチップで表し、皮の部分はハウレンソウ、内側の赤はビーツで色をつけています。

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
岩手	盛岡農業	共同開発パン	食品科学科	校章「柏の葉」をイメージした、「山ぶどう&ホイップメロンパン」。県産小麦「ゆきちから」を使用したパン生地、日本一の生産量を誇る県産山ぶどうジャムと県産牛乳入りホイップクリームをサンドした。
	花巻農業	復興支援活動	食農科学科	食物コースでの地元企業との連携による、海産物を使った「海籠包(シーロンボウ)」や、花巻農業高校で生産した加工品を使った「さけ焼売」の商品化
	遠野緑峰	農業資源を活用したホップ和紙の研究	生産技術科	遠野市の特産物であるホップは、果実である毬花以外の蔓や葉のほとんどが焼却処分されている。その蔓から繊維を抽出しホップ和紙として再生させ、ホップ農家や行政と連携し農家の産業振興を目的に取り組んでいる。
		遠野産ホップの新たな可能性を求めて	生産技術科	遠野市のホップは全国屈指の一大産地である。そのホップの果実である毬花はビールの香りや苦みとして利用される以外利用用途はない。そこで毬花を使ったクッキーやハンバーグ等に加工しその普及に取り組んでいる。
		伝統野菜早池峰菜の研究	生産技術科	遠野市では、昔伝統野菜である「早池峰菜」の栽培が盛んに行われてきたが、ほうれん草などに押されその栽培が衰退し現在では本校と伝統野菜研究会の農家でしか栽培されていない。その復活に向けた研究である。
一戸	石窯ピザ交流活動	総合学科	課題研究で作製した移動式の石窯を活用して、ピザ作り体験を企画し、地域のイベント等に参加し交流活動を行っている。	
宮城	柴田農林	民間企業との連携事業	園芸工学科	マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツの組織培養が成功すれば、コンテナ苗の生産に至れ、急速な海岸防災林を再生出来る。生徒が自ら生産した抵抗性クロマツの苗木を植樹することで、社会貢献の力が育ち、地域への思いやりや新興復興の意欲が生まれる。また、植物バイオテクノロジーの高度な技術を身につけられ、学習意欲への向上にも期待出来る。
		フラワーアレンジメント講習会	園芸工学科	多種多様な切り花の生体や特徴、名称を覚えることが難しく、さらに華道などの技術を家庭で学ぶことは難しい。技術講習を実施することで、草花に関わる機会が増え、身近にある花や植物に親しみが湧き、生活が豊かになる。さらに高度な技術が身につけられ、生徒の意欲向上や個々の感性が磨かれる。
		(社)宮城県測量設計業協会との連携事業	森林環境科	H27、28年と県測量競技大会に協力していただいた縁で、宮測協とのつながりができ、今回講師依頼をするに至った。仙南地域においても、測量分野の担い手不足は深刻化しており、このような講習会を通じ、生徒の測量業への興味関心を高め、測量業を志望する人材を育てていく必要がある。
		いちご専業農家との連携事業	食農科学科	食農科学科2年生の生徒を対象とした事業である。本事業は東日本大震災からの復興を担う専門人材育成事業から継続した事業である。いちご栽培の新しい技術を知ることにより農業の魅力を再発見することができる。また、販売までの六次産業の流れも勉強することが出来る。
	小牛田農林	和牛調教	農業科学コース	各イベントでの和牛調教披露
		たんぼアート	農業土木コース	農業土木技術を生かしたポイントの設置
	石巻北	交流広場とらまい	総合	食農系列では六次産業化への取り組みとして校内で製粉した米粉を使用し、パンを製造している。また味噌、ソース類や農場生産物をとらまいで販売。運営は各系列の生徒が担当している。
		こめぼこ商品化プロジェクト	総合	震災を契機に宮水との交流で、かまぼこのつなぎに米粉を使用し、こめぼこを開発。毎年田植え、稲刈り、こめぼこづくりを合同で行っている。昨年から大学、企業と共に商品化プロジェクトを展開している。
	南郷高校	高大連携	産業技術	熊本県立大学とのマイクロバブル水を活かしたシクラメン栽培で、園芸学会での発表へ向けて学習を継続している。
	亘理	商品開発	食品化学科	平成27年度から3年間地域特産品活用連携事業に参加し、イチジクの加工利用について取り組み、イチジクグミとイチジクのクリームチーズが山元町のブランド認証品として認証されました。
	農業	鉄コーティング直播	農業科	農業企業との連携により水稻の直播栽培に取り組んでおり、その成果を地域にも還元できるように取り組んでいる。
		酒米栽培	農業科	酒米を栽培し、酒造会社に卸し、本校オリジナルの「復興太鼓」として製造してもらい、地域の酒販店で販売してもらっている。
		加工用キュウリの栽培	園芸科	漬物工場と連携し、加工用のキュウリを栽培、一部を本校でラベルを作成し文化祭で販売。
		地域PR制作	生活科	地域をPRするCMを作成し、市と連携してコンテストに応募した。
秋田	秋田北鷹	ケイボン(去勢鶏のブランド化)	生物資源科	比内地鶏雄の去勢による肉質改善と飼育方法の研究および商品化、ブランド化、地域特産品との連携
	増田	プロジェクト活動	農業科学科	簡易水耕レタス栽培装置を使用した交流創出プロジェクト。高齢者との交流イベントを定期的実施。
		プロジェクト活動	農業科学科	蜂蜜の代用となる糖質を米から生産し、活用するプロジェクト。
		プロジェクト活動	農業科学科	クマと共存するための山菜伝承プロジェクト。山菜栽培・緩衝帯設置・山菜料理の普及を実施。
	大曲農業	プロジェクト活動		生物工学部による、田沢湖の酸性水の中性化研究プロジェクト。地域・大学との連携。
能代西	消費者オーナー制へのチャレンジ		ブラブリック秋田や北都銀行などの選手の多くは、寮生活をしている。安全で美味しい農産物の安定供給と販路拡大を兼ねて挑戦し始めた。	

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
秋田	金足農業	農場見学	生物資源科	追分小学校 農場見学 学校用苗購入
		県立大学生授業見学	全学科	県立大学生の授業を見学する。L科課研 F科総実・微経
		野菜苗販売会	生物資源科	農産物販売
		トントちゃんクラブ	生活科学科	ミニトマト苗植え
		農場見学	生物資源科	秋田県視覚支援学校 高等部普通科 農場見学
		味噌造り講習会	食品流通科	みどり学園 味噌造り講習会
		野菜苗植え付け指導	生物資源科	追分小学校 野菜苗植え付け指導
		金農田植え(1年生)	全学科	金農田植え(1年生)
		金農バンケーキ販売開始	農業クラブ生徒	企業連携 パン開発 金農バンケーキ販売
		農場見学	生物資源科	秋田大学教育文化学部附属幼稚園 農場見学苗植
		秋田駅ふれあいフェスタ2018春	農業クラブ生徒	農産物販売会
		夢メッセ	造園緑地科	庭園見学
		農場見学	生物資源科	飯島南小学校 農場見学 苗購入
		苗の定植体験	農業クラブ生徒	国際教養大学留学生 苗の定植体験
		トントちゃんクラブ	生活科学科	さつまいも定植
		現場見学会	環境土木科	雄物川総合水防演習
		社会人講師活用事業	生物資源科	農業機械 ドローン操作研修
		社会人講師	生活科学科	ファッション造形 週4時間社会人講師
		サツマイモ定植	生物資源科	秋田保育園 土崎カトリック幼稚園 サツマイモ定植
		秋田空港開港記念イベント参加	生物資源科	農産物販売会
		五城目朝市市神祭	生活科学科・農業クラブ	農産物販売会
		太平山パーキングエリア花植え庭手入れ	生物資源科・造園緑地科	パーキングエリア花植え 本校生徒作成庭園手入れ
		追分駅草花植栽活動	生物資源科	駅前草花植栽活動
		出前講座「食品を科学する」	食品流通科	出前講座「食品を科学する」(講師:秋田県立大学教授 秋山美展)
		自分を変えるコミュニケーション力	生活科学科	自分を変えるコミュニケーション力 (講師:秋田看護福祉大学)
		農業科学館まつり	科学部	農産物販売および活動紹介
		食彩館くらら販売会	生物資源科	農産物販売会
		復興支援事業 宮城県農業植樹事業	造園緑地科	復興支援事業 宮城県農業高校への植樹事業
		復興支援事業 カプトムシプロジェクト	造園緑地科	復興支援事業 カプトムシプロジェクト(赤崎小学校へのカプトムシ贈呈)
		測量技術研修会	環境土木科	測量技術研修会
		現場見学	環境土木科	秋田港現場見学
		現場見学会	環境土木科	現場見学会
		追分夏祭り	生物資源科	農産物販売会 ブラスバンド演奏
		秋田県農業試験場開放	生物資源科	秋田県農業試験場開放日 体験・研究発表

都道府県	学校名	活動名	学科	概要
秋田	金足農業	誉れの秋田販売	生活科学科	企業連携 オリジナルスープ開発 販売
		農産物流研修会	生物資源科	農産物 物流に関する 研修会
		RIC CAD 講習会	造園緑地科	CAD による庭園設計講習会
		パパヘラボート販売	生活科学科	地域企業との連携による商品開発 販売
		トントちゃんクラブ	生活科学科	親子クッキング「巻き寿司」
		ウインナーソーセージ作り講習会	農業クラブ	ウインナーソーセージ作り講習会
		トントちゃんクラブ	生活科学科	親子クッキング「スイートポテト」
		熟練技能者による日本料理講習会	生活科学科	熟練技能者による日本料理講習会
		後継者育成支援事業による製菓講習会	生活科学科	後継者育成支援事業による製菓講習会 (講師:オイスターバーナー)
巻き寿司講習会	生活科学科	巻き寿司講習会		
山形	村山産業	環境保護の啓発活動	農業経営科 農業環境科	農業部バイオテク班では、絶滅危惧植物の保護・増殖に関する研究に取り組んでおり、オキナグサの栽培講習や植物の無菌操作体験等を通じた環境学習の出前講座を実施し、県民の環境保護に対する意識啓発を図っている。
		芋類の生産性向上と商品開発	農業経営科 農業環境科	農業部バイオテク班では、ジネンジョやサトイモのバイオテク苗の生産・栽培と加工品の開発に関する研究に取り組んでおり、地域資源の更なる普及を目指し、地域農業団体と連携した栽培実験と開発商品の販売を実施している。
		植物共生微生物エンドファイトの単離	農業経営科 農業環境科	農業部バイオテク班では、農業生産への活用を目的として、植物共生微生物エンドファイトの単離に関する研究に取り組んでいる。
	庄内農業	酒米プロジェクト	農業経営科	農業経営科では酒米の栽培を行い、地元酒造会社の支援を受け、本校オリジナルの清酒の製造を行っている。麹菌の接種や仕込み等の見学もさせていただいている。
福島	白河実業	ふれあい農園	農業科	地域住民の方々にほ場の一部を開放し、農業を通じた交流活動を実施している。
		白実チャレンジショップ	農業科	地域の活性化を目的に、毎月1回地元市街地の空き店舗にて、本校農産物を販売している。
	会津農林	会津伝統野菜の普及	農業園芸科	会津伝統野菜の復活に取組、貴重な在来種のシードバンクとなっている。商品開発や食育活動を積極的に行っている。
			森林環境科	国産漆の生産が減少する中、地元会津塗のため漆生産を復活すべく活動している。木質バイオマスエネルギーとして利用することで、里山の復活を促す研究Ⅱ取り組んでいる。
東京	大島	さくらプロジェクト	農林	全校生徒により地域資源であるオオシマザクラを台木にサクラの園芸種を増やし、校内や島内(土砂災害被災地など)に植樹する活動
		生徒による椿ガイド	農林	大島町の観光の目玉「伊豆大島椿まつり」期間中に国際優秀つばき園である本校椿園を一般公開するとともに生徒による椿ガイドを実施。海外の方には英語でのガイドも実施。町の観光名所のひとつとしてスタンプラリーも設置している。
		地域資源ツバキを活かす活動	農林	椿ガイドにとどまらず、ヤブツバキを伊豆大島の地域資源として里地里山の保全、椿油や椿炭などの特産品づくりと新商品開発を島内外の関係者・関係団体と連携しながら実施している。
神奈川	中央農業	セントラルジャパンホルスタインショー	畜産科学科	1等4席
		フラワーアンドガーデンショー	園芸科学科	奨励賞受賞
		高文祭弁論大会全国大会	畜産科学科	出場
埼玉	熊谷農業	くまのうあいの提供	生物生産工学科	日本赤十字に協力し本校のアイスプラントで作ったアイスクリームを熊谷献血ルームで提供
		事故ボウシ運動	生活技術科	交通安全を祈願した事故帽子のマスコットを小学生に配布する。
	杉戸農業	事故ナシ運動	園芸科	安全運転を祈願し国道4号線杉戸警察署への協力でドライバーに梨を配布する。
		無事カエル運動	生活技術科	安全運転を祈願し国道5号線杉戸警察署への協力でドライバーにカエルのマスコットを配布する。
	わくわく科学教室	生物生産工学科	学校の通学生徒の多い越谷市の児童館で科学教室を行う。	

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
埼玉	川越総合	三富新田を世界農業遺産へ	総合学科(FJ)	環境循環型農法を世界農業遺産へ(日本農業遺産は認定済み)
	秩父農工科学	「農力」育成強化プロジェクト	食品化学科	「第3のみつ」の製造技術の研究や地域特産品の開発。
	いずみ	三ツ又沼ピオトープ環境保全	生物サイエンス科	さいたま市・川越市・上尾市・川島町の境にある三ツ又沼ピオトープでの外来種駆除と在来種育成活動
イオンとの商品開発		生物資源化学科	イオンと共同で商品(食料品・特にパンや調理品等)開発・販売を行っている。	
千葉	茂原樟陽	茂原駅前花壇植栽	生産技術科	生徒たちが丹精こめて栽培した花を、茂原市福祉協議会と茂原駅に花壇植栽事業を行った。
		千葉県乳牛共進会	生産技術科	本校生産牛「ショーヨー ダミオン キナコ」が千葉県乳牛共進会未經産部門において名誉賞を頂いた。
	大網	愛菜フェスティバル	生物工学科	地域連携。食の安全安心や環境負荷の小さい農業をテーマとした農産物や食品加工品の販売イベント。
		ハマボウフウの保護・再生活動	生物工学科	地域連携。絶滅の危機に瀕している海浜植物ハマボウフウの保護・再生活動。
		エゴマの栽培・加工	食品科学科	エゴマの自然栽培を行い、クッキーやドーナツなどの加工品開発を行っている。
	菓園台	菓草園	園芸科	生徒が菓草園を復活させ、地域の方に菓草の説明や菓草で作ったお茶や染め物を通じて交流を行っている。
	清水	緊急災害時の食事レシピの開発	食品科学科	災害時等ライフラインが断たれたときに食べられる食事の研究開発。
	流山	江戸川台駅花壇植栽	生活科学科	江戸川台駅花壇の植栽を自治会と協力し合い定期的に管理している。
		千葉大学連携事業	園芸科	千葉大学環境フィールド柏の葉にて説明・実習研修
	成田西陵	酒々井駅周辺国道植栽活動	園芸科	生徒たちが栽培した花を、「さわやか酒々井(サークル団体)」と一緒に花壇植栽事業を行った。
動物との触れ合い学習		生活科学科	ライオンをはじめタレント動物の赤ちゃんとの触れ合い体験を生物活用の授業の中で取り組んでいる。	
茨城	大子清流	全国募集	農林科学科	生徒募集を全国から行っている。
	水戸農業	茨城の農業を支える人材育成プロジェクト	全学科	北海道清水町・鹿児島県種子島・茨城県内等の先進農家における宿泊実習、農業法人・関連企業での校外実習等を実施し、農業への理解を深め、就農・農業関連産業従事者への進路意識を高める。
	江戸崎総合	クラウドファンディングによる商品開発プロジェクト	総合学科	本校の立地する稲敷市と協力し、ふるさと納税の「クラウドファンディング」で原資100万円を集め、地域の特産品を使ったスイーツを開発する。開発したレシピはオープンレシピとし、「紅いもタルト」の稲敷市版を目指す。
栃木	宇都宮白楊	幻の陸稲エゾジマモチ復活プロジェクト	農業経営科	栃木県は全国2位の陸稲産地。宇都宮市特産品種エゾジマモチの栽培を半世紀ぶりに復活、地域へ普及させて6次産業化を目指す。
	鹿沼南	サツキの海外輸出	環境緑地科	サツキの苗木を栽培し、EU輸出に向けて検疫を受けている。本年度中に輸出可能となる予定である。
		板荷茶の消費拡大	食料生産科	板荷地区で栽培されている板荷茶の消費拡大のために、洋菓子に利用した商品開発を地元企業と連携して行っている。
		地元特産品を利用した洗剤の開発	食料生産科	「鹿沼土」を利用してトマトの汚れを落とす洗剤の商品開発を企業と連携して行っている。
	小山北桜	規格外果実を使用したアイスクリームの開発	園芸科学科	規格外の梨やブドウを使用したアイスクリームを地元のアイスクリーム店と連携し開発に成功、商品化した。
		門松の作製・販売	造園土木科	作製した門松を市役所に設置したり、販売を行っている。
		思川桜(地元の桜)の挿し木育苗法の研究	造園土木科	思川桜の育苗は現在接ぎ木による方法のみだが、挿し木により育苗ができれば、生産効率の良い育苗法として期待できる。
	栃木農業	地域伝統野菜の普及活動	農業科・生活科学科	地域の伝統野菜である「宮ネギ」の種の固定・配布と普及活動
		学校周辺遊歩道の改修・整備と地域住民との交流	農業土木科	平成27年に起きた関東集中豪雨で被害を受けた学校周辺の遊歩道の改修・整備と地域住民との防災・減災についてのワークショップ開催
		真岡北陵	GGAP 取得への取組	生物生産科
那須拓陽	自然再生活動	農業経営	自然再生プロジェクトとしてピオトープの作成による生物の多様性が可能な環境を創る活動	
群馬	勢多農林	SPH 事業への取組	全学科	研究開発課題は、「勢農ブランド確立への挑戦！未来の農業を拓く専門人材育成プログラムの開発～ 地方創生や成長産業としての農業を担うための資質・能力の育成～」とし、全学科で取り組んでいる。

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
群馬	伊勢崎興陽	伝統野菜の保存	いのちと緑を育む系列	本校が所在する地域には二百年以上にわたり栽培されてきた「下植木ネギ」があり、このネギを守る会の「下植木ネギ栽培保存会」と連携し、ネギ栽培を経験させながら生徒に地域の歴史と文化を理解させている。
	利根実業	野生動物被害対策の研究	生物生産科	イノシシ・ニホンジカの圃場への侵入防護研究
		地産品を利用した商品開発	生物生産科	地産品の枝豆を利用した商品開発と商標登録
	大泉	クビアカツヤカミキリムシの研究	生物生産科	GPSを使ったクビアカツヤカミキリの被害木調査
		渡良瀬遊水地における自然保護活動	グリーンサイエンス科	渡良瀬遊水地の環境保護と対策
		赤城山ヒメギフチョウ保護活動	グリーンサイエンス科	赤城山に生息するヒメギフチョウの保護活動
		シモンイモを使った商品開発	グリーンサイエンス科	地元大泉町の人口1割を占めるブラジル国原産のシモンイモ商品を開発活動
	吾妻中央	地元大泉町の特産品の開発(コーヒーまんじゅう(ブラジル)の開発)	食品科学科	地元大泉町の人口1割を占めるブラジル国原産のコーヒーを使って地元特産品を目指す。
		商品開発	生物生産科	JAの農産物加工場とのコラボによる県育成品種を活用した商品開発及び販売
		地域交流	生物生産科	草花の栽培技術を通じた花育、植花交流や、小動物を活用したふれあい動物交流などを実施
山梨	農林	地域貢献	環境工学科	吾妻農業事務所農村整備課、美野原土地改良区と連携し、測量技術を活用して美野原地区一帯の農業用水路、農道を含めた地形図作成、水路管理データベース作りを支援
		デュアルシステム	森林科学科・造園緑地科	希望する生徒を対象に林業・造園業への長期間の就業体験学習を実施している。
		県農大との連携事業	システム園芸科	県農業大学校と連携し、県農大での授業や出前授業を実施している。
静岡	富岳館	地元ブランド焼酎の原料づくり	全学科	甲斐市と協力し、ブランド焼酎「大弐」の原料のさつまいもを栽培している。
		地域の特産品を利用した商品開発	総合学科	地域の農産物を生かした商品開発をプロジェクト学習で行っています。現在取り組んでいる内容は富士宮地域の特産品である梅と落花生を利用したお菓子の開発を農協や企業と協力して行っている。
		食育	食品科学	子供会へのパン、菓子、ケーキ、麺づくり教室
	静岡農業	動物ふれあい訪問活動	環境科学	愛玩動物を飼育し、地域小学校、特別支援学校等を訪問し交流活動を行う。
		茶手揉み講習	生産流通	静岡市茶手揉み保存会の講師より講習を受け、茶手揉み技術を習得し伝統技術の継承を図る。
		松葉プロジェクト	食品科学	三保松原の松葉の有効活用のプロジェクト研究、松葉商品開発、環境保全活動など産官学協力し、地域貢献活動に取り組んでいる。
		地域交流	生物工学科、吹奏楽部、生産流通	市内の山間地域「大沢地区」で開催される「大沢縁側カフェ」において運営補助、静岡農業農産物販売、コンサート活動等を行っている。
	磐田農業	高校総体草花装飾	生物生産	平成30年度東海総体、県内会場の草花装飾活動を行う。
		教育機関とのワークショップ	環境科学・プロジェクト班	学習活動の成果を活かし教育教材を作成し、地域小学校放課後教室や科学館等で生徒が指導者となりワークショップを開催
		藤枝北	過疎化地域の活性化プロジェクト	総合学科
磐田農業		動物ふれあい体験支援	生活科学	羊の毛刈り体験、洗毛体験、羊毛加工体験を園児に体験支援を行った。
		耕作放棄地再生利用	食品科学	地域の耕作放棄地を利用し、山ウドの栽培、加工、調理と干し芋用サツマイモの栽培、加工に挑戦した。
		池と川の環境保全活動	環境科学	市内の二つの池と一つの川にて定期的に、NPO、市、県と連携して、草刈り、藻取り、ゴミ拾い等の環境整備活動を行った。
		郷土伝統野菜の栽培伝承	生産科学	失われかけた伝統野菜「見付カボチャ」の栽培を「いわた夢クラブ」や県立農林大学校、栽培農家と連携し、栽培、調理、加工を研究した。
	特産野菜の普及研究	生産流通	磐田市特産のエビイモの栽培、加工、商品開発を地元食品店と連携し行った。	
磐田メロン漬け商品開発	生産流通	摘果したメロンを利用した漬物を地元食品店と連携し商品開発し、県外の各種イベントにて販売した。		
草花校内販売とバラ園公開	生産科学、環境科学	草花苗等を毎月2回地域の方々に校内販売し、5月、11月に校内バラ園を一般公開している。		

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
静岡	磐田農業	3世代農業・食育体験支援	生産流通	市と連携し、園児、小学生、保護者、老人を対象に野菜の栽培・収穫・調理の体験支援を行った。
		市内美化活動	生産科学	市と連携し、市内2か所の公園に花壇の作製、管理を行い、駅前歩道にはプランターを作製、設置、管理をしている。
		草花を活用した交流活動	生産科学	幼稚園、老人福祉施設を訪問し、栽培した草花を活用し、押し花、寄せ植え等の体験支援を行った。
		みかん狩り体験支援	生産流通	本校みかん山にて、11月に近隣の幼稚園、保育園等約20団体、1,000人を対象に収穫体験支援を行った。
		駅前軽トラ市への出店	生産流通、食品科学	市、商工会、商店街と連携し、年4回、駅前商店街で行われる軽トラ市に、子メロン漬けやパン等を販売している。
		園児農業・食育体験支援	生活科学	幼稚園と交流し、年7回、野菜栽培、パン作り、カレー作り、ジャガイモ掘り、焼き芋作り、餅つき等食農教育支援を行った。
浜松湖北	湖北 MAGIC	農・工・商・普	学科を超えそれぞれの特色を出し、地域連携や校内での活動を行っていく。(校内カフェ、はままつフルーツパークの1日湖北生運営など)	
田方農業	有機 JAS 認証	生産科学科	野菜、コメの有機栽培を通じて安心・安全な栽培を啓蒙している。	
	静岡県版 GAP、HACCP 認証	動物科学科	畜産における静岡県版 GAP および乳製品の静岡県版 HACCP の認証を通して生産管理工程について学習している。	
新潟	巻総合	巻総 CHAT 地域連携活動	総合学科	食料環境系(Agr.)、工業系(Techni.)、商業系(Com.)、生活文化(Home.)が一体となった巻総CHATを組織し、地域連携活動に取り組んでいる。
	新発田農業	ラーメンコラボ	食品科学科	学校で生産した野菜を活用して近隣のラーメン店とコラボラーメンを提供
	長岡農業	CAT	全学科	長岡市内の専門高校(農業・商業・工業)が連携し、模擬株式会社を設立し、定期的に常設店を開店している。また、市内イベントなどにも積極的に参加している。社長は毎年3校より立候補者が出てきて投票で決めている。
	加茂農林	SPH 事業	全学科	HSJ カリキュラムによる自立型地域リーダーの育成 ～協働的課題解決能力と自己教育力を兼ね備え、自ら未来を切り拓く人づくり～
	高田農業	雪室ノンジンを使った商品開発	食品科学科	JA えちご上越と地元特産の雪室ノンジンを利用した焼き菓子「米ジェヌ(スパイシー&キャロット味)」の共同開発
		上越市特産のダイズを使った加工品の開発	食品科学科	東京オリンピックに向けて上越市で取り組んでいる地元産ダイズを利用した「ソイバター」の開発
クリーンボーク認証の取り組み		生物資源科	安全・安心な高農畜産物を提供するため H29年度に新潟県畜産安心ブランド生産農場認定(クリーンボーク認定)を受けた。	
富山	南砺福野	エコビレッジ活動	農業環境科	地元南砺市役所エコビレッジ推進課と連携した、省エネ・地元地域創造・活性化活動の推進に取り組んでいる。
	中央農業	とっぴもかわいい! 獣害対策	生物生産科	獣害に悩まされている地域の耕作放棄地で、農家と協力しヤギベルトファームを作り、獣害対策と耕作放棄地の活用に取り組んでいる。
	小矢部園芸		専攻科園芸科	退職した方を対象とした専攻科。園芸学習を通じたリカレント教育。若い高校生との交流
石川	翠星	GROBALG.A.P への取り組み	総合グリーン科学	農学分野を学ぶ生徒が本校で栽培する「米」において GROBALG.A.P 認証取得へ向けた活動を行っている。
		模擬株式会社としての取り組み	総合グリーン科学	食品科学分野を学ぶ生徒が「SUISEI FACTORY」という模擬株式会社を立ち上げ、地域活性化へ向けた商品の開発・販売等の活動を行っている。
	七尾東雲	環境保護活動・保護研修	総合経営学科	石動山ユリ苗・ササユリ苗の提供と希少植物の増殖研修
		里山環境保護活動	総合経営学科	七尾市八田地区の棚田保全活動
福井	福井農林	牛の放牧	生物生産	本校の第二農場で獣害防止や生徒の研究活動のために黒毛和牛2頭を池田町から受け入れ、6～9月の約3か月間、放牧している。
		種の保存	生物生産	福井の新ブランド地鶏「福地鶏」の”親”である交配品種ウエミチレッド40羽が譲渡され、本校が人工授精で種を保存していく。
	若狭東	薬用植物の産地化	地域創造科 食農創造コース	薬用植物のコウギクを栽培し商品化に向けて地域企業と連携している。
		高校生レストラン	生活創造科	薬膳料理のレシピを作成し、実際に調理をする高校生レストランを開催している。
坂井	絶滅危惧種Ⅱ類の保全活動	食農科学科 農業コース	絶滅危惧種ⅡA類に属するエチゼンダイモンジソウの増殖を福井大学と、絶滅危惧種ⅡB類に属するアゼオトギリの生態調査と保全方法を福井県立大学と連携して研究を行っている。	
長野	須坂創成	信州すざか農業小学校	園芸農学科	須坂市主催で応募による小学生が月2回程度、年間約20回、土曜日にボランティア農業者から農業を学び、その指導アシスタントとして参加し、野菜、水稻の栽培に当たる。また、学校で味噌作りの講座(1日)も担当する。
		高山村ワイン研究会	食品科学科	高山村が主催する研究会(生産・醸造・振興部門)に県外も含め募集により応募した会員とワイン産業の振興を目的に情報や技術の交流を行う。

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
長野	更級農業	親子ふれあい農業塾	グリーンライフ科	地元 JA と連携して小学生とその保護者を対象に農業塾を開催。年 15 回講座を開講している。
	丸子修学館	人材育成事業	総合学科	高精度ミニトマトの栽培・普及を通して地域・農家・企業と連携して地域で活躍できる人材育成事業を昨年から2年間行なっている。
	上伊那農業	環境班	緑地創造科	学校林に流れている水質調査(COD・NH4・NO2・NO3・TO4)
		畜産班	生物科学科	地域との連携(鹿肉の加工)
		バイテク班	生物科学科	絶滅危惧種 アツモリソウの保護活動
	塩尻志学館	ワイン製造	食品科学系列	本校は大正時代よりワイン製造の許可を認可され、地域の特産品としてのワイン造りをしている。
	南安曇農業	商品開発	グリーンサイエンス科	食品加工品に関わる新商品開発。安曇野市との商品開発連携事業
		販売活動	グリーンサイエンス科	病院祭やそば祭など地域イベントでの販売活動
		マーケティング塾	生物工学科	県内商業高校・松本大学と連携をして商品開発、販売方法を学習(6次産業化)
		特別支援学校との交流	グリーンサイエンス科・生物工学科	果樹栽培、藍の栽培での交流
		出前授業	グリーンサイエンス科 生物工学科	地域公民館や養護学校分教室、小学校、保育園、老人福祉施設における出前授業(花育・リンゴ栽培・花壇づくり・ふれあい動物園)
		安曇野市連携事業	全学科	姉妹都市の東京吉祥寺での販売活動に年2回参加
		信州創生人材育成モデル事業	環境クリエイト科	長野県建設業協会安曇野支部、長野県測量設計業協会中信支部会員による TS 測量講習会の実施
		建設系学科高校生の就労促進事業	環境クリエイト科	建設機械、型枠製作、鉄筋結束、現場見学会の実施
学校開放講座		全学科	地域の方々を対象として、生徒が講師となり、様々な講座を運営	
愛知	安城農林	ふれあい田んぼアート	全学科	安城産業文化公園「デンパーク」に隣接する田んぼで、毎年「田んぼアート」田植え・収穫作業に参加している。
	渥美農業	6次産業化への取組	農業科	地域企業と連携し、規格外ミニトマトやアールスメロンを使用した食品の開発。平成29年12月にはミニトマトを原材料にしたパンを商品化。平成20年7月には規格外アールスメロンを使用したメロンパンをそれぞれ商品化し、店頭にて販売までおこなった。
	稲沢	ふれあい農園	園芸科	広報で募集した地域住民と露地野菜部専攻生3年生がコミュニケーションをとりながら農業実習を行う。毎回生徒は、実習前に黒板を使って実習内容を参加者に説明した後、班に分かれて実習指導を行っている。
		稲わら活用プロジェクト	園芸科	稲わらの活用方法を考え、地域の指導者から俵作りを学んだ。俵は体育祭に使用したり、俵みこしを文化祭で披露したり、活用方法は広がっている。稲わら細工の技術伝承にも取り組んでいる。
	佐屋	弥富文鳥文化復活プロジェクト	生物生産科	日本で唯一、愛知県弥富市で生産されている白文鳥の生産農家がわずか2軒となるなか、繁殖に2017年秋に初めて成功した。今後は動物販売取扱業第1種「販売」の免許を取得し、佐屋高校が農家に代わって弥富文鳥の遺伝子を広めるために活動を行っている。
		ハスの再生プロジェクト	生物生産科	国営木曽三川公園内にある5.4haに及ぶ義呂池のハスが2016年に突然消滅した。その時採取された貴重なハスの種を佐屋高校が実生苗から栽培し、移植することで自生ハスを再生させる。また、絶滅リスクを減らすために、佐屋高校が自生ハスの里親となる。
		チェーン除草による堀田の保全活動	生物生産科	国営木曽三川公園内に2018年に整備された再生堀田の除草方法としてチェーン除草で栽培管理するだけでなく、ジャンボタニシの卵をチェーンで取り除く方法に取り組んでいる。
	新城東作手校舎	サギソウの調査研究	人と自然科	サギソウは絶滅危惧種に指定され、旧作手村の花であり、旧作手高校の校章でもあった。その意思を引き継ぎ、自生地での調査研究、無菌播種技術での増殖、地域の中学校への出前授業など地域に根ざした活動をしている。
	鶴城丘	市民農園	アグリサイエンス系列	校内に40区画(各16㎡)の農園があり、利用者と生徒が手紙を通して栽培の様子等について交流している。
		資格取得	環境デザイン系列	企業の方を講師として招き、小型車両系建設機械の資格取得をしている。
	田口	スギの葉からの抽出オイル	林業科	スギの葉を抽出し、アロマオイルの利用法について研究している。
ハナノキからメープルシロップを		林業科	ハナノキからメープルシロップを作る研究	
半田農業	グリーンカーテン共同育成活動	農業科学科	中部国際空港セントレアや、半田市と連携してグリーンカーテンの普及活動を行っている。	
岐阜	岐阜農林	スーパープロフェッショナルハイスクール(SPH)	全学科	「地域の食・農・環境の持続的発展に貢献する人材育成の研究」のテーマのもと、大学や研究機関等と連携しながら、新たな技術や発想を取り入れた農業を創造する”GINO Brand”を目指した取組を進めている。

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要	
岐阜	岐阜農林	理数教育フラグシップハイスクール(FSH)	全学科	理数教育を充実させて、日本農業の問題を科学的視野に立って発見・解決できる能力を育成するとともに、国際性の高い科学技術系人材を育成する取組を進めている。	
	大垣養老	食用ひょうたん地域を救え！～瓢箪倶楽部秀吉の挑戦～	食品科学科	養老町の特産品である瓢箪を用いたグリーンカーテンやイルミネーションによる町興しから始まり、2020年東京オリパラの暑熱対策採用に向けての地道な取り組み	
	郡上	ヨーグルト生産実習	食品流通科	牛乳と砂糖および乳酸菌だけ高度な発酵食品製造を実践。2週に1度約1000個を生産し地域の小売店等で販売。	
		環境保護活動	森林科学科	国や県の天然記念物に指定される動物が数多く残っておりその生態を残すための調査や保護活動を行っている。	
	恵那農業	次米みのり祭りの参加	園芸科学科	昔恵那の地で栽培したお米を朝廷に献上した歴史を再現したイベントに参加し、生徒が田植え、稲刈り、踊りなどを行う。	
		笠置山栗園植樹・収穫祭へ参加	園芸科学科	恵那市が取り組んでいる笠置山栗園における植樹祭や収穫祭、剪定講習会への協力	
		JAひがしみの農業祭	園芸科学科・食品科学科	地域の最大の農業イベントにおいて実習生産物の販売・エゴマパン、蜂蜜の販売など本校の実習製品や活動内容を紹介	
		シクラメンの学校列車	園芸科学科	明知鉄道とコラボイベント列車を走らせている。イベントではシクラメンについての勉強会や農家見学を行う企画	
		シクラメンのオリジナル品種の開発	園芸科学科	シクラメンの新品種を開発し、地域の農家にも普及活動を行っている	
		有機キュウリ栽培	園芸科学科	キュウリ栽培において有機JASの認証を取得し、地域のスーパー等で販売する他、化粧品原料としても使用されている。	
		世界ラン展への出展	園芸科学科 園芸デザイン科	20年前から東京ドームで開催される世界ラン展に出場しており、ディスプレイ審査部門において最優秀賞2回、優秀賞2回などを獲得している。	
		絶滅危惧種保全活動	園芸科学科	バイオ技術を用いた絶滅危惧種の保護活動を展開(サクラソウ、フクジュソウ、ヒゴタイ、ヤチシャジン、サギソウ)	
		あじめこしょうを使った商品開発	食品科学科	地元の伝統野菜あじめこしょうを使用したケチャップ「辛いケチャップあいこの味」や、ポップコーン「あじポップ」の商品開発を行った。	
		栗柄の有効利用	食品科学科	恵那市の特産品である栗さんとの製造過程で出る栗柄の堆肥化や菌床に用いたキノコ栽培などの有効活用する研究を行った。	
		ハニープロデュース	食品科学科	耕作放棄地再生プロジェクトの推進のため、恵那市・建設会社・食品科学科の三者間で協定を結びエゴマの栽培および商品化を行っている。	
		ハニープロデュース	食品科学科	養蜂を行い、とれた蜂蜜を使い地元企業と連携して蜂蜜、パフェ、かき氷、食パンなどの商品開発を行っている。	
		空心菜による水質浄化	環境科学科	中国野菜の空心菜を用い、阿木川ダム湖、名古屋の堀川、などの水質浄化のほか、仙台で津波被害のあった田の塩分除去活動も行っている。	
		棚田の保全	環境科学科	恵那市にある坂折棚田の保全活動を行っている。	
		環境保全活動	環境科学科	里山の保全活動として、企業と連携し活動雑木の整理伐、森林内の温度、湿度、照度、土壌調査を行い森林内の環境を把握する活動。	
		フラワーロード	園芸デザイン科	恵那駅前の花壇や、公園の花壇装飾などを地域の住民と一緒にやっている。	
	園芸福祉活動	園芸デザイン科	施設の利用者の方々と一緒に鉢植えの制作や、アレンジメントの制作を行いながら園芸福祉活動を行う。		
	食農教育活動	園芸デザイン科	食農教育活動では、近隣の保育園で、農業の役割や食料の大切さを子どもたちに教える活動を行っている。		
	市立阿木	チームAGI	生産科学科	地域と学校が一体となって地域活性化に向けた活動を展開する。今年度は、阿木地区の特産である「そば」と「小麦粉」の活用に取り組む。具体的な活動として、全国高校生そば打ち選手権大会への出場に向けた、そば打ち指導。小麦を活用した商品化などに取り組みます。	
	三重	相可	コスメ商品開発	生産経済科	地域農産物を使ったコスメ商品の企画・開発を地元製薬会社と協働で行っています。みかん、伊勢茶、小豆などの農産物でハンドクリーム、乳液など現在までに11商品を開発し販売しています。
			バイオマス消化液の利用	生産経済科	バイオマス発電所から排出される消化液を液肥として農業利用する調査・研究を行っています。
		明野	商品開発	生産科学・食品科学・流通科学	生産科学科で独自飼育の豚を「伊勢あかりのぼーく」としてブランド化し、更に食品科学科の「明野味噌」を使い「肉味噌」を開発、パッケージは流通科学科の生徒が考案する。
滋賀	八日市南	東近江市社会福祉協議会事業「サマーホリデー」	花緑デザイン科	八南農場見学ツアー 八日市養護学校 小学部の生徒対象としたボランティア活動 毎年8月 3回実施。	
		農業体験交流会	農業科	甲良養護学校高等部 農業選択生に野菜・畜産・作物・果樹栽培の管理実習を生徒が先生役として養護学校高等部の生徒に教授する取り組み。	

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
滋賀	八日市南	環境ふれあいスクール	花緑デザイン科	能登川南小学校5/6年生を対象に「猪子山」を舞台とした森林再生を目的とし、高校生が小学生を指導する取り組み。
		農業ふれあいスクール	農業科	八日市南小学校2年生とのサツマイモ栽培体験実習を生徒を先生役として小学生に指導する取り組み。
		東近江市地域振興連絡事業「チャレンジキッズ」	食品科	小学生・保護者対象クッキーづくり講座 8月実施。
		聖徳中学校との前庭花壇の植栽指導(春・秋)	花緑デザイン科	聖徳中学校1年生を対象にした前庭花壇の緑化活動の指導(花育活動) 5月・10月実施。
		八日市幼稚園とのサツマイモ栽培と収穫実習	花緑デザイン科	八日市幼稚園 4歳児対象のサツマイモを題材とした食育活動を実施。 6月・10月実施。
		農業高校生等特別講座 草花類の栽培技術(講義・実習)	農業科	滋賀県立農業高等学校の施設をお借りして、園芸(果樹・草花)班2年生の学習活動として実施する。 毎年8月実施。
		滋賀県農産普及課主催 先進経営体視察	全学科希望者	滋賀県立農業高等学校・先進地農家見学を行う、学科を問わず農業に興味関心を持つ生徒を対象に将来の担い手育成に向けた取り組み。
		政所茶プロジェクト	食品科	政所地区の耕作放棄地となる茶園を借り入れ、煎茶の生産から現在生産されなくなった玉露の復活に向け、6次産業化を实践する。
		滋賀県農産普及課主催 青年農業者との交流・意見交換会	農業科	東近江青年農業者3名に來校していただき、分科会形式で農業の魅力や農業経営について学ぶ。
		「奥村ファーム」との6次産業化に向けた乳製品を用いた商品開発	農業科	本校の牛乳を用いた新たな商品開発を試みた6次産業化の取り組み。
		ムラサキ栽培プロジェクト	農業科	東近江青年農業者クラブとの栽培連携・奥永源寺君ヶ畑地区との栽培連携・能登川博物館との染め物体験講座。
		高校生レストランプロジェクト	食品科	平成28年度は12月17日～18日 八日市文芸会館内 喫茶「セリーヌ」を借用し、約120名が来店。 メニュー:鹿肉のオムバーグ・政所茶ロールケーキ・ボトフ他 洋定食
		暮らしのデザインプロジェクト	花緑デザイン科	地域貢献活動として、行政や学校・地域等の連携を通して学科で学んだ知識・技術を活用しながら、庭園の設計や施工などに取り組む。 例)①奥永源寺道の駅前前庭の作成 ②市内布施公園 改修工事設計提案 ③県立彦根翔西館高校 中庭設計他
		校外委託実習	全科2年	毎年9月下旬から10月上旬にかけて2年生対象に実施。 ①農業科:農家派遣 ②食品科:食品製造・販売企業関係 ③花緑デザイン科:造園会社・関連企業。
		高等学校産業人材育成プロジェクト実習	全科3年	毎年4月・7月にかけて3年生対象に実施。 ①農業科:農家派遣 ②食品科:食品製造・販売企業関係 ③花緑デザイン科:造園会社・関連企業。
京都	木津	GAP	システム園芸科	荒茶栽培・生産に関し GlobalGAP 取得
	桂	TAFS プログラム	植物クワイエット科園芸ビジネス科	課題研究授業「TAFS」を開講し、学科と学年の枠を取り払った研究室を構成し、3年間連続した探究活動を行っている。
	農芸	京都府国際水準GAPモデル農場設置事業	農産バイオ科	京都府国際水準 GAP モデル農場設置事業の指定を受け、野菜コースがトマトでGLOBAL G.A.P.認証を取得し、モデル農場としてGAP普及の拠点となっている。
		農業農村アプレンティスプログラム	環境緑地科	農業土木コースが南丹広域振興局と連携し、土地改良施設などの現場で「ほんまもん」の技術を伝えるプログラムを実施している。
	綾部	即売会	農業科・園芸科・農芸化学科	学校での活動を地域の方々に知っていただくため、また喜んでいただくため週に1回学校での即売会、年に2回地域商店街での販売会、年に1回学校で大規模な販売会を行っている。
	久美浜	松林再生プロジェクト	総合学科(生産科学系列)	地元の松林を再生するため、松苗を育成して植栽したり、地域の方と一緒に下草刈りや間伐等ボランティア活動を行っている。
大阪	能勢	企業連携	総合学科	企業と連携をして、農産物を加工して販売
	園芸	地元特産品コラボ販売	フラワーファクトリ科	地元特産品の柚と、本校で採取した蜂蜜を使用したボン酢、とんかつソースの販売
		SSH	バイオサイエンス科	スーパーサイエンス校指定校として、植物・バイオ関係の各種研究と発表
	枚岡翔風	環境調査	総合学科	国蝶オムラサキの生態観察
農芸	知財教育による6次産業化	ハイテク農芸科・資源動物科	のうげい、ポークカレーの製造販売とアグリフェスの開催	

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
大阪	農芸	百年の丘	資源動物科	本校創立百周年時に記念事業として作った「百年の丘」(天王寺動物園を設計したデザイナーによる設計監修)という一般向けの動物展示エリアを活用して、ふれあい動物の一般公開。
		酪農教育ファーム	資源動物科	酪農教育ファーム認定牧場として、地域児童を対象に酪農食育活動を実施。
		大阪伝統畜産物(鴨)復活PT	資源動物科	企業連携により、農芸鴨による商品開発(鴨フランスパン、鴨葉膳料理)と販売、および高校生レストランの実施。
		食育教育ファーム	資源動物科	カモを教材として、命の誕生から食鳥処理を行い食するまで一貫した農と食と命についての食育教育活動。対象となる中学生学年全員を、1年次2学期～2年次3学期まで継続して1年半実施。
兵庫	但馬農業	農業高校だからできる息の長い東日本大震災復興支援	農業科	震災が発生した年から、12月にはシクラメン、3月にはボリアンサを6年継続して仮設住宅に届けている。
	有馬	来園者に自然環境の魅力を伝えるための夢プログラムの企画・実施	地域自然保護	学校設定科目地域自然保護では平成22年度より県土木事務所、県立人と自然の博物館と連携し、県立有馬富士公園をフィールドとした『来園者に自然環境の魅力を伝えるための夢プログラムの企画・実施』を展開している。
	播磨農業	乳牛改良活動	畜産科	乳牛の増殖と改良として受精卵移植技術があるが個体差が問題となっている。その問題を解明し、BCSと優勢卵胞除去を用いることで効率よく数多くの受精卵確保が可能となり、地域の酪農家への受精卵提供拠点校となっている。
	山崎	地域貢献活動	森林環境科学	里山整備を行い、地域の子供から高齢者に体験の場を提供し、自然とのふれあいや炭焼き等の伝統農村文化を継承する活動に取り組んでいる。
	佐用	小学生農業学習・体験交流支援	農業科学科	小学生の農業学習・体験交流支援として、サツマイモ、イネ、ダイズの栽培をはじめ、自然学校の農業体験プログラムの指導を学科生徒が主体的に実践している。
		伝統工芸品紙すき技術の継承と研究	農業科学科	皆田和紙保存会と連携して和紙材料の研究、伝統工芸品「皆田和紙」の紙すき技術の継承を行っている。
		花と元気を届ける東日本復興支援ボランティア	農業科学科	震災発生翌年から被災地の仮設住宅を訪問し、生徒が栽培した花の植栽と元気を届ける支援活動を行っている。現地での活動には家政、普通科の生徒も参加する。
	農業	ひょうご安心ブランドの取得	農業科	兵庫県独自の食品認証制度である「ひょうご安心ブランド」の認証取得(夏秋トマト)。
		動物バイオテクノロジーを利用した「但馬牛」「神戸ビーフ」の増産	動物科学科	兵庫県農林水産技術総合センター、JA等と連携した「但馬牛」、「神戸ビーフ」の生産基盤を強化。
		ハリスオークを活用した鳥獣害対策	動物科学科	鳥獣害対策を目的としたハリスオークの活用。
		ドブガイの増殖とため池の浄化	農業環境工学科	学校周辺に隣接するため池群の水質浄化に向けたドブガイの増殖。
		イチジクのウイルスフリー苗作出	生物工学科	兵庫県立農林水産技術総合センターと連携したイチジクのウイルスフリー苗の作出。
		淡路	ハマビシ保護栽培	総合学科
掻い掘り	総合学科		水産業と連携し、ため池の水と一緒に溜まった泥なども海へ流すことにより、海の栄養価を高め、海苔の品質向上に取り組む。	
奈良	磯城野	「ココロワ」アプリの開発	環境デザイン科	スマホで奈良の庭園「依水園」を案内する観光アプリを開発した。現在は、吉野山「竹林院」を案内する観光アプリの開発に取り組んでいる。
		直売所「しきの 彩(いろどり)」の運営	農業科学科・施設園芸科・バイオ技術科・環境デザイン科	起業家精神の育成を目的として、模擬株式会社を設立し、火曜日の放課後を中心に定期的に学校生産物の販売をしている。
		大和野菜の普及活動	施設園芸科・バイオ技術科	大和野菜を校内で栽培し、販売・出荷、さらに大和野菜を加工した商品開発や、イベントを実施している。「大和野菜列車」の運行や生産農家との連携活動へと発展している。
		高品質な鶏肉・豚肉・鶏卵の開発	農業科学科	県内事業所と連携し、高品質な鶏肉・豚肉・鶏卵の生産に取り組んでいる。
	五條(賀名生分校)	全国募集	農業科	平成30年度より、寮を完備し、全国募集を行う。地域で就農する生徒の育成を目的とし、地域農家や事業所での実習を多く取り入れる。
		北海道現場実習	農業科	53年目をむかえる行事で、余市町の農家(ブドウ・リンゴ・オウトウなど)に寄宿し、寝食を共にしながら、10日間作業を行う。
和歌山	有田中央	アグリ☆スマイル	総合学科	高校生校内模擬カンパニー「アグリ☆スマイル」という会社組織を作り、農業クラブ活動を通して地域に貢献する実践的な取り組みを行い、地域で活躍できる人材となる力をつけている。
鳥取	倉吉農業	スーパー農林水産業士を育成	生物科	就農を目指す生徒で、認定プログラムを修了し、特に成績優秀な生徒を「スーパー農林水産業士」として鳥取県が認定するものである。食の6次産業化プロデューサー認定と長期インターンシップの修了が課せられている。

都道府県	学校名	活動名	学科	概要
鳥取	倉吉農業	本校のコメ、ダブル金賞	食品科	「第8回全国農業高校お米甲子園」と「第11回あなたが選ぶおいしい米コンテスト in 庄内町」に出品した。それぞれ最高金賞に次ぐ「金賞」、最優秀金賞に次ぐ「優秀金賞」に輝いた。
		JR倉吉駅「おもてなし庭園」整備	環境科	一昨年、10月に発生した鳥取中部地震(最大震度6弱)で出た廃瓦などを利用し、JR倉吉駅前に庭園を整備した。「星取県」をテーマに地震の復興に努めている。トワイライトエクスプレス瑞風の運行開始を記念して、瑞風を模した10両編成のプランターカバーを作成し、駅舎内に装飾した。
	鳥取湖陵	未利用資源の活用による栽培プロジェクト	食品システム科	海岸に打ち上げられた海藻を地域資源と有効利用を図り、有機質肥料としての可能性を探求。
	日野	リーダー育成事業	総合	地域活性化を目標に、地域調査により地域資源の掘り起こし、ワーキングホリデイにより地域農家の実態把握を行っている
	智頭農林	格子作り	森林科学科	町内の建具屋さんと一緒に格子を作り、町内に寄贈している。
藍染暖簾作り		生活環境科	町内の職人さんと一緒に藍染の暖簾を作る。できたものを町内に寄贈している。	
島根	出雲農林	アブラギリを用いた森林再生	植物科学科	従来から松くい虫やシカの被害等で荒廃が進行し裸地化している出雲市北山において、成長が早く、シカの被害もないアブラギリ植栽し、早期の森林再生を行い、防災・景観に役立てる。
		地域の宝・出雲コーチンの復活	動物科学科	明治から戦前にかけて、島根県で飼育され、肉や卵が利用されていた出雲コーチンは、戦後、外国種の広がりとともに、その数は減少してきた。そこで、この貴重な種を絶滅から救い、価値ある鶏として復活させる。
	邇摩	花時計植え替え	総合	地域の公園内にある花時計の栽培をし、植え替え作業は地域小中学校・特別支援学校と作業を行う
		訪問販売活動	総合	まちづくりセンターと連携し、農産物販売をセンターへ出張し販売する
		サツマイモ交流	総合	地域の保育園児とサツマイモの植え付け・収穫作業を通して交流する
農林大学校との交流	総合	県立農林大学校と連携して、体験活動や講師派遣、花育、技術指導など多岐にわたる交流活動を行う		
邇摩高フェア	総合	総学科の全系列の学習成果発表として、各系列が特色を生かした販売・交流・貢献活動を行う		
岡山	高松農業	高農環境を考える会	農業クラブ専門部会	岡山市と連携し、平成15年度より絶滅危惧種「スイゲンゼータナゴ」の保護・調査活動に取り組んでいる。平成26年度に開催されたESD国際会議岡山大会にも参加した。
		郷土芸能部	農業クラブ専門部会	「あつ晴れ！おかやま地域文化奨励賞」を高校生としては県内初めて受賞。倉敷天領太鼓の流れを組んで長年地域に伝承されている最上太鼓の公演活動に取り組んでいる。
		有機JAS認定による水稲・野菜生産	農業科学科	アイガモ農法より効率的なアイガモ・どじょう農法を検証しながら、高品質米の生産に取り組んでおり、今年度もお米甲子園へ挑戦する。また、海外研修生と有機農法を通して交流を図っている。第12回食育推進全国大会 in おかやま出演。
		乳牛研究会	畜産科学科	乳牛共進会に出場し、将来の酪農家としての資質を高める。第14回全日本ホルスタイン共進会後代検定娘牛の部で入賞して高校枠全国トップ、リードマンコンテスト3年生の部でベストリードマンを受賞した。
		合同会社高農くすのきカンパニー	農場全体	合同会社高農くすのきカンパニーは、起業学習の一環として平成27年1月に設立した。農家や企業と連携し、6次産業化の実践的な学習をする。
	勝間田	企業連携	食品科学科	企業スコレからの依頼で、ドラゴンフルーツジャムを食品科学科が製造研究し、よりおいしい成分配合を開発し商品化した。
	新見	千屋牛の伝統調教技術の伝承	生物生産科	千屋牛の伝統調教技術である和牛の基盤乗りを継承し、地域の催事等において披露している。
	興陽	農業女子プロジェクト	農業科	農業女子のサポーターズとして参加。年3回のマルシェや勉強会に参加。農業女子フューチャーズとして女子生徒をイベントに参加させ、校了して関係作りとしている。その縁もあり、農業女子の方の事業所に就職し、就農している。
	井原	D#プロジェクト	園芸科	綿の栽培から、製糸、デニム商品の縫製まで行っています。休耕地の有効利用や有機堆肥の使用、無農薬にこだわり、環境負荷の軽減を図っている。
		ハッピー園芸講座	園芸科	地元ケーブルテレビと連携し、草花や野菜、ラン等の管理方法や園芸の魅力を収録して、放映している。
真庭	ジビエ製品開発	食品科学科	猪肉を利用した発酵調味料の開発とそれを利用した二次加工品、ランチメニュー等を開発し、販売や地域での試食会に取り組んできた。	
高梁城南	キャンドルナイト in 高梁	環境科学科	高梁市内の高校・大学に呼びかけ、廃油キャンドルを作成・点灯する環境イベントを協同開催。今年で10年目を迎える。	
広島	庄原実業	JGAP認証に向けた取組	生物生産学科	本学科の果樹(梨、ブドウ)においてJGAP認証を果樹研究班(6名)が行っている。県内では初の認証となる。9月上旬認証予定。
		管内後継候補者研修会	生物生産学科	庄原市、県畜産課などと連携し、平成25年から継続して年間7回程度を目途に研修会を継続して行っている。地域和牛調教、管理技術の伝承を継続して行うことができた。
		肉用牛経営研究室	生物生産学科	日常管理と和牛調教の活動。種牛のしばふく号(父=3柴沖茂、母の父=安茂勝)が第11回全国和牛能力共進会第7区総合評価群(種牛の部)の一頭として出品され、優等賞8席を得ることができた。

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
広島	沼南	イグサプロジェクト	園芸デザイン科	広島県東部の伝統産業である“備後畳表”に関わる歴史と文化・技術を後世に継承するため、畳表の原材料となるイグサ“せとなみ”の栽培を行っている。外部講師の授業、ボランティア活動、商品開発等を行っている。
	油木	ナマズプロジェクト	産業ビジネス科	地域に広がる耕作放棄地を利用し、ナマズ養殖の実践を行い、地域活性化を考えた活動をしている。本校で育てたナマズがマツダ球場の常設メニューとして販売された。
山口	田布施農工	フラワーアレンジメント	生物生産	授業において2・3年次に計4単位で本格的な学習をしており、プロとして最低限必要な技術の習得を目指し学習を行っている。
		グルテンフリーの米粉パン開発	食品科学科	誰もが安心して食べることができるグルテンフリーの米粉パンを開発に取り組んでおり、最終的には、防災備蓄として役立てていただけるような商品を目指している。
		清酒製造	食品科学	昭和30年から熊毛杜氏の養成と蔵人の育成のために醸造科が誕生し、以来、農芸化学科や食品科学科と科名変更をしながらもお酒造りは伝統として受け継がれており、日本で唯一清酒製造の技術を学ぶことができる学校である。
		どぶろく製造	食品科学(農業研究部酒造班)	田布施町はどぶろく特区の指定を受け、本校としてもどぶろくの製造に関する研究を始めた。製造する中で、全国のどぶろくに関する課題や問題点を調査し、改善に向けて研究をするとともに特区の方々を対象とした講演などを行い好評を得ている。
		庭園の設計・施工	都市緑地・環境土木科	科目「造園技術」にて、割り当てのスペースに思い思いの庭園を作り、農工祭にて地域の方に品評してもらっている。
	大津緑洋	ハマユウの保護活動	生物生産科・生活科学科	ハマユウの自生地北限になっている。ハマヨトウの防除から活動が始まり、現在では草刈りなどの保護活動を行っている。
		直売所の運営	生活科学科	1週間に1回、授業「食品流通」で直売所を運営している。販売する農産物は、各部門で生産したものである。
萩 奈古分校	鳴き砂ボランティア活動	総合学科	学校近くの清ヶ浜は鳴き砂で有名であったが、近年環境の悪化により鳴きなくなった。そこで清掃ボランティア活動を始め、鳴き砂を復活させた。	
徳島	城西	エシカル消費・エシカルな行動の推進	全学科	エシカル消費推進に結びつけた学習活動(地産地消や食品ロスをテーマにしたプロジェクト学習)・伝統産業・文化(藍染め・阿波和三盆糖)の継承に取り組んでいる。
	城西 神山分校	どんぶりプロジェクト	造園土木科	町営集合住宅の緑化活動で、神山町内の在来樹種の種を収穫し育て、生け垣にするプロジェクト
		フードハブプロジェクト	生活科	神山町内の地産地食の食材で商品開発し、循環型の6次産業化を図るプロジェクト
		孫の手プロジェクト	生活科・造園土木科	町内に住むお年寄りや体の不自由なお宅の環境整備を、授業で学んだ技術を生かしお手伝いするプロジェクト
		古民家改修プロジェクト	造園土木科	築100年以上の古民家の庭園や住宅周辺の環境整備や改築に協力するプロジェクト
		石積みプロジェクト	造園土木科	風景の明媚な棚田が環境被害や、鳥獣被害に合っている地区の石積みや、造園技術で復興するプロジェクト
		森林女子	生活科	神山の林業従事者不足を解消するため、広報活動やイベント活動を積極的に行い林業活性化に一助するプロジェクト
		神農クラブ防災活動	生活科・造園土木科	H28年度より防災クラブをたちあげ、地域防災や、小学校などの出前授業を展開する活動である。
		エシカルクラブ	生活科・造園土木科	エシカルについての情報発信や、自らエシカルを理解するために取り組む啓発活動を計画的に取り組んでいる。
	国際交流プロジェクト	生活科・造園土木科	オランダ王国と2年前から、国際交流活動を添加しているお互いの留学生を招いて郷土の文化や環境問題を学んでいる。	
新野(阿南光)	バイオテクノロジー部	総合学科	阿南市伊島町に自生するイシマササユリ保護活動に取り組んでいる。環境大臣賞受賞	
池田 三好校	夏秋イチゴの周年栽培	食農科学科	周年栽培を目指した低標高夏秋イチゴの栽培研究とイチゴワインの製造	
吉野川	藍染め	生物活用科		
	養蚕	生物活用科		
	押し花アート	生物活用科		
那賀	ドローン学習	森林クリエイト科	平成28年度より、町と連携し林業分野等におけるドローン運用方法について学習している。	
	地域の特産物・伝統技術伝承	森林クリエイト科	地域の特産物である「木頭スギ」の有効活用や、伝統技術である「拝宮和紙」製作技術伝承について学習している。	
香川	農業経営	主基斎田お田植まつり	全学年	大正天皇即位の大嘗祭に新穀を奉納を与った主基斎田で、町無形文化財「主基斎田お田植まつり」に、本校女子生徒が早乙女・踊り子として参加している。
		地域農業学習	2年全学科	2年生の希望者を対象とし、生徒の居住地を担当する農業改良普及センターと連携し、地域の先進的な農家や企業で見学研修を行っている。
		先端農業実施研修	2・3年全学科	2・3年生を対象に学科や専攻に応じた企業や研究機関を訪問し、進んだ農業技術を学ぶ研修を行っている。
		外部講師により技術指導	3年全学科	各専攻学習の深化を図るため、外部講師(地元菓子店、企業専門職員など)を招聘し、実践的な技術を学んでいる。

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
香川	農業経営	保育所との交流活動	3年全学科	地元の保育園児を農場に招き、イモのつるさしや収穫体験を実施している。
		ふれあい動物園	3年動物科学科	移動動物園として地域の文化祭に参加。高齢者福祉施設の入所者や地元の保育園児・特別支援学校の生徒を農場に招待するなどして、動物(ポニー・イヌ等)とのふれあい体験を実施している。
愛媛	土居	ESD 環境教育	普通科 アグリカルチャーコース	農業を学んでいく中でESDに関する学習内容を含んだ取り組みを取り入れ、個々のSDGsへの取り組みへと導き、環境を意識した生活を学ばせる。
	伊予農業	GGAPの取得	環境開発科	ドローンを用いて無農薬水稲栽培を実施し、GGAP取得と東京オリンピックでの選手への提供を目標にしている。
	上浮穴	カホンを使った持続可能な木材利用	森林環境科	木製楽器「カホン」を製作するワークショップでは木材利用の啓発や地域イベントでの演奏活動を通して、森林環境保全活動を推進している。
		クロモジの香りの利用	森林環境科	山林に自生するクロモジから抽出した精油を使って商品開発や香りの効果効能による癒しや健康増進に利用する研究をしている。
		規格外トマトの有効利用	森林環境科	特産品であるトマトの規格外品を使って、加工による有効利用について研究している。
	野村	北海道ファームステイ	畜産科	2年生の9月に8泊9日で北海道札幌農協及び黒松内町農家にインターンシップ(宿泊実習)を行う。その後、道内で修学旅行を実施する。
移動動物園		畜産科	本校で飼育する愛玩動物(ポニー、ヤギ、ウサギ)を地域のイベントに連れて行き、子ども対象にポニーの乗馬などの動物ふれあい体験をしてもらう。	
高知	春野	はるのあじさいコミュニティクラブ	園芸系列	産学官の連携を図り、あじさい街道の復活プロジェクトを立ち上げ、あじさい維持管理と観光資源であるあじさいを生かした取り組みを進めている
	高知農業	カーネーションに感謝の思いを込めて(母の日)	農業総合科	農業総合科の生徒が栽培したカーネーションを全校生徒に配布し日頃お世話になっている方に贈るイベント
		父の日に感謝の思いを込めて	畜産総合科	畜産総合科が製造したベーコンを全校生徒に配布し日頃お世話になっている方に贈るイベント
		高校生レストラン	生活総合科	最寄りの道の駅での高校生レストラン開催
	幡多農業	GAP認証取得に向けて	園芸システム科	GAP認証取得に向けたGAP教育を活用することで、生徒の自主的な活動を促す。
		体験学習受け入れ事業	アグリサイエンス科	近隣小学校を中心に、家畜の世話や搾乳体験を通じた命の授業に取り組んでいる。
はたのう市場		全学科	学期に1回、本校の生産物を地域の方々に販売し、コミュニケーション能力や生きる力を育む取り組みを行っている。	
福岡	糸島農業	根こぶ病対策支援活動	農業技術科	福岡地域農業改良普及センター、JA、農家と連携して地域のアプラナ科野菜産地を根こぶ病から守る取組。
		糸島講座「糸島地域広域連携事業」	全学科	福岡県・糸島市と連携し、糸島農業振興プロジェクトとして、生徒達が日ごろの授業成果を講師として希望した地域の方に伝える。
	嘉徳総合	ドローンを使用した授業	農業食品科	農業散布用ドローンの機体を導入し、本年度、現在までに3名の生徒に資格を取得させた。また、ドローンを活用した授業を科目「農業機械」で実施している。今後は、水田への農業実散布等を計画している。
	久留米筑水	柳坂曾根ハゼ並木保存活動	環境緑地科	福岡県の天然記念物に指定されている樹齢約200年の「柳坂曾根榎並木」保存活動として地元保存会と一緒に剪定ボランティア活動をしている。
八女農業	商品開発 ペットボトル茶「八女高茶(はつのうこうちゃ)」	生産技術科	原料は、全て本校で専攻生が栽培した茶葉を使用している。味や包装、ネーミングについて生徒が全て検討し考案した。大変好評で、平成23年度に商標登録し、地域に愛されるブランド商品として親しまれている。	
佐賀	唐津南	虹ノ松原保全活動		唐津南高校虹の松原プロジェクトは、平成16年度より国の特別名勝である虹の松原の保全活動を行っている。活動は松葉かきや清掃活動、有効資源の研究、日本未来遺産への登録活動、各種大会・研究会での広報活動を行う中で守るべき遺産虹の松原を後世につなげる活動をしている。
長崎	諫早農業	諫農出前授業	全学科	各学科実施可能な小中学生向けの出前授業をHPで公開し一般に募集している。
	大村城南	水田を活用した田んぼアートと食農教育について	総合学科	水田を活用した田んぼアートを実施しており、地域の子ども達や関係機関と連携し食農教育も実施している
	西彼農業	希少植物保護活動	施設園芸科	地元の絶滅危惧種(カノコユリ・ハマボウ)の繁殖・植栽を行い、保護活動を行っている。
		地域との連携活動	施設園芸科	地元の小学生を招き、動物の講座を開催。本校生徒も近隣の長崎バイオパークにて実習を行っている。
		スクールマーケット	食品流通科	長崎市内の繁華街にてスクールマーケットを開催している。毎年実施しているため、市民の期待度も高い。
	北松農業	絶滅危惧植物の保護活動	生物生産科	地域の絶滅危惧種である、キヒラトユリや野生ランをバイオ技術を使って増殖している。
ドローン技能教育		生物生産科	田平まちづくり協議会の協力を得てドローンの農業への利用について指導している。	

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
熊本	北稜	田んぼアートプロジェクト	全学科	園芸科学科の稲作技術、造園科の測量技術を元に地域団体と共に学校を挙げて取り組み6年目になる。
	阿蘇中央	有機栽培米	農業食品科	完全無化学・無農薬栽培を続けて20年以上が経過しており、阿蘇地域のきれいな水を活用した特別栽培米に取り組んでいる。
		草原環境保全活動	グリーン環境科	地域と連携し阿蘇の草原環境維持活動及び草原資源の有効活用を目指し茅葺き屋根の製作等の技術継承に取り組み高い評価を得ている。
	八代農業	一人一畑一経営	園芸科学科	各生徒が自由に作目や経営規模を決めて、利益を出すことを目的に播種から栽培、収穫、販売を行う。
		地域連携プロジェクト	食品科学科	地域農産物を活用し、近隣のアグリビジネスセンターやJA等と連携して、加工品の開発を行う。
	南稜	南稜米のクラウドファンディング	生産科学科	湯前町と連携して南稜米を杵つき精米クラウドファンディングに挑戦した。
		県版GAP認証	園芸科学科	品目「トマト」が熊本県版GAPに認証された。地域への普及活動、東京オリンピックの食材提供を目標としている。
		地域食材を生かしたスイーツ開発	食品科学科	あさぎり町と連携してダイズを材料としてスイーツを開発。駅カフェで販売している。
小学校「生活科」の学習活動支援		生活経営科	小動物舎での動物に関する体験学習を小学校低学年「生活科」で実施。本校生徒が小学生に教えている。	
大分	三重総合 久住校	全農大分県本部との人材育成に係る協定	農業科	協定に基づき生徒の興味関心を高め、専門性の向上を図る「農業人材育成プログラム」の開発に取り組んでいる。全農からは農業資材の提供や講師等の派遣、関連施設での体験研修、土壌等の分析・指導等の支援を受ける。
	三重総合	高大学連携	生物環境科	大分県立農業大学校に1・2年生が向向き本校に無い作目の学習活動を行っている。
		遠隔授業	生物環境科	大分県立三重総合高等学校久住校(来年度単独校)と学校設定科目の外部講師の授業を遠隔授業として実施の準備を進めている。
	大分東	米ゲルを使った新商品の開発	園芸ビジネス科	米ゲルを使用し新商品となる加工品の製造
		汚泥肥料の活用研究	園芸ビジネス科	食と下水道の連携～BISTRO下水道～大分市が民間企業ベオリアニに委託し、汚泥肥料の共同研究を行っている。
	日出総合	くじゅうアグリ創生塾に係る研修	農業経営	農業の担い手育成や指導者養成、教員の資質向上に関する研修等を行う研修施設の設置(三重総合高校久住校へ設置)
	宇佐産業科学	光合成細菌の培養と農業分野での活用に関する研究	グリーン環境科	崇城大学の依頼を受けた光合成細菌の培養と農業分野での活用に関する研究で、菌の有効性に関する様々な事例の紹介と今後の展望について研究の進めている。
	日田林工	ひた千年あかり	林業科	毎年11月、森林にはびこるタケの有効利用として地域の方と協力して竹灯籠にしている。地元の行事として定着している。
玖珠美山	地域連携	地域産業科	4つの類型が、地域に関する課題を取り上げ、課題研究のテーマとして実施。その成果を課題研究発表会として一般の方にも公開	
	パークマットの企業化	地域産業科	この地域で処理に困っているスギ樹皮の有効利用としてパークマットを開発、特許取得をして企業化している。	
宮崎	高鍋農業	SPH 事業	全学科	新たな時代の変化に対応できる次世代農業経営者及び関連産業技術者の育成に関する研究 ～みやざきの発展を担う起業家スピリットとスキルを備えた人材育成を目指して～
	宮崎農業	県庁楠並木朝市(宮農ふれあいマーケット)	生産流通科	平成19年度より始まった朝市に出店し、宮農の農産物を地域の販売するとともに出店されているお店に生徒の体験実習をお願いして販売体験を行っている。また、29年度より高校生によるプロデュース朝市も実施している。地域の方々から高い評価を頂いている。
	都城農業	デュアルシステム実施	農業科	平成28年度から地元の農業生産者・農業法人に依頼して、年間を通じて栽培・管理・人間形成について学習を深めている。
		デュアルシステム実施	畜産科	平成28年度から地元の農業生産者・農業法人に依頼して、年間を通じて栽培・管理・人間形成について学習を深めている。
		デュアルシステム実施	ライフデザイン科	平成29年度から地元の農業生産者・企業に依頼して、園芸に関する栽培及び管理・人間形成について学習を深めている。
	デュアルシステム実施	食品科学科	平成29年度から食品関連の企業に依頼して、食品製造や接客に関する内容と人間形成の学習を深めている。	
鹿児島	市来農芸	「指定種豚場」認定	生物工学科	今年度で6年連続「かごしま黒豚指定種豚農場」認定
	薩摩中央		生物生産科・農業工学科	宮之城ロータリークラブと共同でサツマイモを育てる取組は、地域で働く様々な職種の方々との交流を通じて生徒が社会性を身に付ける良い機会となっている。
	鶴翔	スマート農業	農業科学科	ICTを活用した水稲栽培。作業時間、施肥量、収量、作業内容などをスマートフォンを活用しデータ化を行う。空撮ドローンを活用し、栽培管理を映像化にも取り組む。他にも、ICTを活用し生産と販売を結びつけるような取り組みを行う。
	伊佐農林	専攻班編制と資格取得	農林技術科	栽培・飼育・食品加工に林業専攻班を加えて編成し、在籍者全員が小型車両系建設機械特別教育、チェーンソー安全衛生特別教育及び刈払機安全衛生教育講習を修了する。
	鹿屋農業	6次産業化による地域特産物の活性化	農業科・生物工学科	鹿屋市甘藷対策事業を活用し、鹿屋市や大隅加工技術研究センター等と連携して地域特産物であるサツマイモ「紅はるか」のブランド化や加工品開発・パイオ苗育成及び、「かのや紅っ娘」のダンスによるPR活動に取り組んでいる。

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
鹿児島	鹿屋農業	「かごしま黒豚」商標	畜産動物学科	鹿児島県黒豚生産者協議会に加盟し、「かごしま黒豚」の商標で出荷できるようになった。
	種子島	優良系統サツマイモ苗の提供	生物生産科	安納芋の苗(継代培養による優良苗)づくりを生物工学班が行い、種子島産安納芋生産の一端を担っている。
	国分中央	優良サツマイモ種苗の供給	園芸工学	酒造メーカーに希少品種「蔓無源氏」の優良種苗を供給する事業を行っている。
沖縄	中部農林	保護犬ひまわりを活用して地域興し	熱帯資源科	愛護管理センターより、処分対象仔犬を引き取り、その犬が人々に癒やしや安らぎを与える存在となるよう、管理と指導をおこない協会のセラピー犬試験に合格し、活動の広報役を担っている。
		震災被災地へのセラピー犬派遣	熱帯資源科	熊本地震被災地へセラピー犬と指導手の生徒を派遣した